

わたしと手話

大観小学校 四年 池本 いけもと 姫梨 ひまり

わたしのおばあちゃんは、耳が聞こえません。

わたしとおばあちゃんは手話を使って話をしています。なので手話は、わたしとおばあちゃんにとっては、あたり前の言葉です。

わたしが生まれてから、おばあちゃんと手話で話をしていたので、自然に手話をおぼえました。

わたしとおばあちゃんが手話で話をしていると、周りのみんながおどろいたり、不思議そうに見てきます。先生や、お友だちはすごいねと言ってくれます。

わたしが手話ができる事は、不思議な事でも、すごい事でもありません。

それは、日本人が日本語を自然に覚える事と、同じだからです。

わたしは、おばあちゃんのおかげで、生まれてから日本語と、手話の二つの言葉を使えるようになりました。

今は、おばあちゃんの耳のかわりに、手話を使って通やくをすることがあります。

その時、おばあちゃんはとてもよろこんでくれます。よろこんでくれるとわたしもうれしい気持ちになります。

おばあちゃんから手話通やくしと言う仕事があると聞きました。

手話通やくしは、耳の聞こえない人のために、病院や大切な話の時につきそって、手話で言葉を伝える仕事です。

わたしは、おばあちゃんのほかにも耳が聞こえない人のやうに立ちたいと思いました。

わたしの今の夢は、手話通やくしになってたくさんの人の耳のかわりになって、たくさんの人によろこんでもらいたいです。

そのためには、手話検定を受けるためにもっと手話の勉強をがんばって、小学校六年生で一級をめざしてがんばっていききたいです。